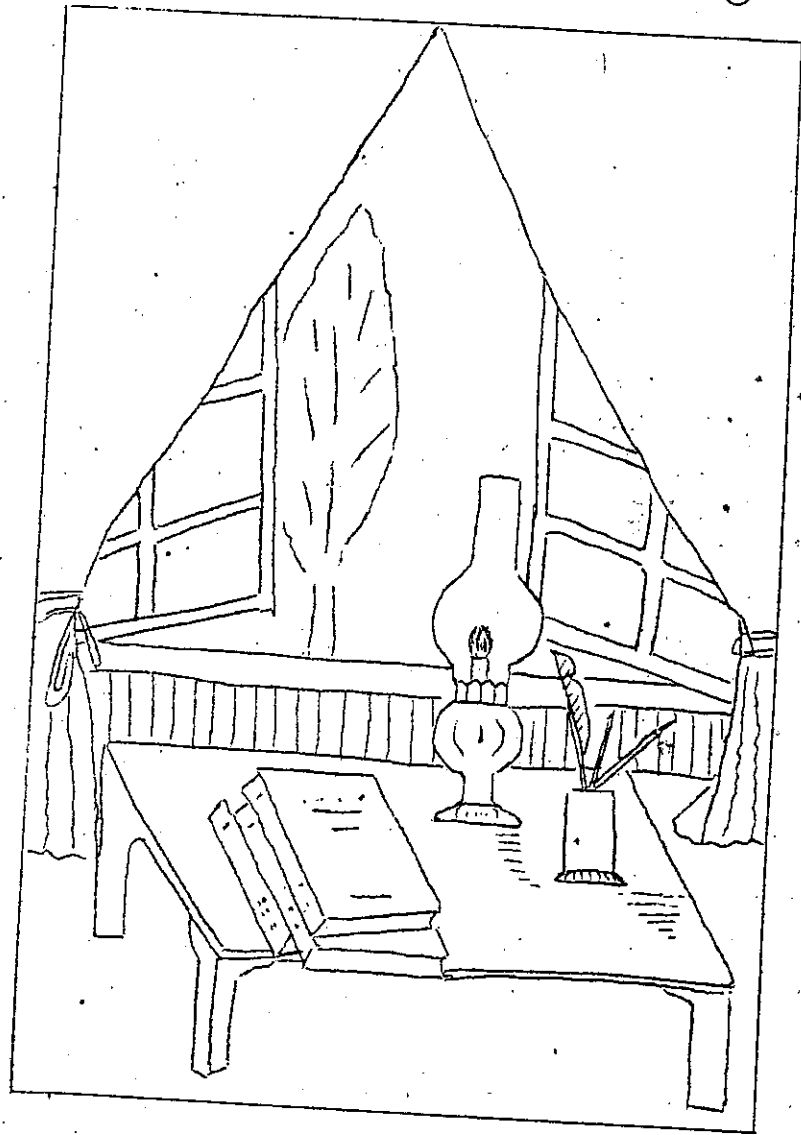


なごしこ

九月号 No. 138



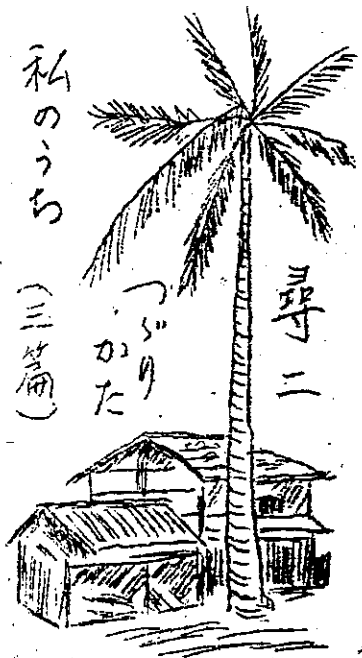
楽しい夏休も終って、涼しい秋風と共に、愈々第二學期を迎へる  
事になりました。

二學期は燈下親しむ時と言つて、一年中で最も勉強に  
適してゐる時です。

夏休中に鍛へた丈夫な身体と新鮮な精神とを以て、

この二學期はしっかりと勉強して下さい。

運動ゆりのかりやつて来るべき運動會に備へて下さい。



私のうち (三篇)

私のうちには父と母と私とひらち  
やんとひでちやんとおます。ひらち  
やんはひでちやんをなかします。

私はひらちやんをとめます。そうす  
るとひらちやんはなまします。する  
と私はおかあさんにしかられます。

(水留那枝)

私のうちはにしまちです。うちには

みんなで四人あります。おかあ  
さんとおとうさんとみのちやん  
と私です。ほかに東京へみ  
つね兄さんがいつてゐます。  
さんばんにはひらち兄さんが  
いつてゐます。

(重田マヨヒ)

私のうちはにしまちのかいがん  
の方です。私が學校からかへつ  
てゆきますと、おとうさんと  
おばあさんと二人でおはなしを  
してゐます。それからこのふだ  
いどこのいぢんなものをのつける

ところをこしらへました。うちの人  
はおとうさんにおかあさんにおばあ  
さんにおねえさんに私です。

(主生 恒子)

柳沼先生 (三篇)

柳沼先生があとせ丸でとうきやうへ  
いつたらこうちやうせんせいとひさこ  
せんせいと二人でをしへます。よみか  
たがひさこせんせい、こうちやうせ  
んせいはおきかたとさんじゆつをし  
しへます。

(小林 五郎)

私を一年から二年までをしへてくれた  
柳沼先生は、このふふねでかへりました。

尋三の文

僕は……

私は……

ふでいれ

磯崎 静夫

僕はふでいれです。まい日朝でも書い  
ても夜でもえんぴつを入れています。  
夜になるとかばんの中にはいりま  
僕のおくめはえんぴつをたいせつにあづ  
かることです。僕はさいふいふでいれ  
です。この間僕のまへにある人が  
えいごをなひふでほりましたのでいた  
てたまりませんでした。いつか又新し  
いえんぴつが二本はいりましたので  
僕ははつかしくなりました。僕は困  
のない時は丘からふたかしまりま  
すのできゆうくつでたまりません。

かばん

清水 完員

柳沼先生がかへつたらなんとなく  
さみしくなりました。柳沼先生が  
かへつたので私たちの先生がなくな  
りました。

(横山 セツ)

ほくたわは柳沼先生をかいかんす  
でおくつていきました。もうして柳沼先  
生はかいかんではなれませんでした。そ  
れからけいぞうによくべんきやうをし  
しなさいといひました。もうして先生  
はときはたのつて行ききました。學校  
にかへるとおじよせいがはんなき  
をししました。もうしてたいせうをする  
とき、ぼーつときがなつて行つて  
しまひました。

(磯沼 栄一)

僕はかばんです。毎日ぼつちやんに  
ぶされて學校に來ます。ぼつちやん  
は一時間すむとすぐとひまはつて  
あそんで僕はあつともあそんでく  
水ませんから僕は學校にくるのがい  
やになりました。もうしてぼつちやん  
は僕をおんぶしてかへつていきます  
と、すぐ僕のおなかをあけてかう  
がうといつて本をよみますから僕は  
うるさくてたまりません。

本立

鵜澤 寛

僕は机の上にある本立であります。毎  
月々々ちがった表紙の本が僕の上に  
のります。一番高い所にはひかうき  
と大ほうがあります。僕の持主は僕  
をひつくりかへしたりして僕をいじめま  
す。ある時僕にすみまをくつけたニと

もありません。そしていつでも僕をなぐります。僕はもういやになって本をたほしたりすると「だめだ、こんをこ」とをしちや、二水からすみをくつけたりしないから、たほしくとれるな」と言つてあますかり僕もうれしいです。

石

長谷川 宏

僕は学校の前の道に二水がつておた石です。海がへりの生徒にふま水たりするので、土の中へもぐりこんで行きました。いつかはどこかの子になげられたので、こんとはやくはの前に来ました。そこはまへの所とちがつてもとをとるのになげられたりします。この間、もうとをとるのになげたのが、海学校のにはへはいりました。海学校のこよこはいつてから

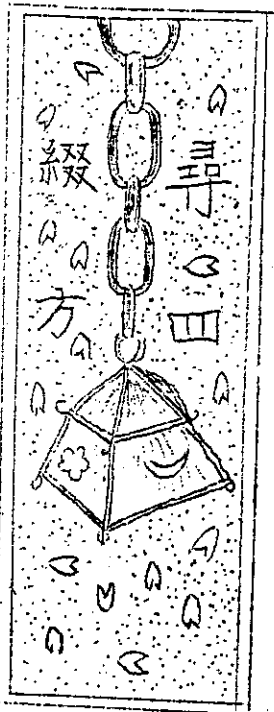
はそのまゝになつておます。

ふとん

石 幡 英子

私はふとんです。私はひるまはおし、いれにはいつてません。五水で夜になるよ、せしきにでてみんが私のおへにぬます。夜中になると、おじやうさんが私の上であはれるので、私はいたてたまりません。そして朝になると、私を三つにおつておしいれに、いれでしまをます。時々外のたんくの上には私をほします。五水で私はあつくてたまりません。

私はひつこくくるたんびにきゆくつをところにはいらなりれば、なりません。



私の家

藤 滝

清

私の家は西町になりました。西町は大層にさやかな所です。私の家は真山組の前で、庭は大へん廣いです。裏手には清瀬より、ももつともつと廣いです。中には色々な珍しいものがあります。マンゴウ木だの、グワウの木やパイヤの木が植えてあります。それから清瀬の車を引つては、時々清瀬に遊びに行きます。もう引越してから清瀬へ十八回行きました。私達が引越す時には清瀬へ入や大村の人達が手傳つてくれたので早く出来ま

した。引越したのは八月の十日でした。

悲しい出来事

石津 若子

今まで二年生を教へてきた柳沼先生が、東京の方へ行かれる事になりました。私の弟、高夫は御飯を食へたから、涙をほろぼろと流しておりました。私は高夫を見て可愛らしくなつて、そのせがかりで、お九月の十日、柏葉式の日には、教壇の上へ上つてお話をした。時大層悲しい御座いました。こんな悲しいかつたのは、はじめてです。いつも裁縫の時間、おへひ出すのは先生や、おへひ出す。

飛行機遊び

金川 幸雄

昨日子供會から歸つてから、森一君と飛行機遊びをしました。そして僕は、きんぐきで、きんぐきで、きんぐきで、きんぐきで

しげがてんこまてした。そして私等が遊んでるなり、たかしとまきぼうが大きい飛行機をもつて来ました。そしてたかしが野郎を飛ばして、僕が飛行場から一番先に飛びました。二番目はけいどうの三番目はしげが飛ばうとしました。車かど飛ましたので、僕等が勝ちました。そして第二回戦にも勝ちました。そして日がくれたから、帰らんとします。しげとけいどうが飛行機でせくまじぶつを飛ばして、ひましました。僕は一人でしげとけいどうが組になり、勝りました。おそくをたつたので、帰りましたが、時計を見ました。七時四十五分でした。

宮崎やす子  
私の家の近所に、前までたかしとまきぼうは可愛かったです。私がカルケットをもつて弟をぶらぶら行くと、弟はすぐころにやります。弟が泣いた時は、すぐころ多所へつれて行きます。ですが、すぐだまります。ころは三日に一度、かりだをあらうてやるマシです。ころは尾が少しかありません。今は、家の近所には居ません。今は清瀬に居ます。時々私が清瀬を通りながら、ころとよみます。とワン／＼とほねます。ころは此の間ころの家のおおきくと屏風谷へ遊びに来ました。ころはカルケットでたかしとまきぼうを食べたマシです。そして、たかしは小さい犬です。あつからたより、大きくなれば、たかしのようです。

林久子さんの(マシマシの家行)と、沖山茂子さんの(秘密)も大へんお上手に出ました。

夏休みの思い出

◎ よつぱり 磯崎時彦

夏休みの或日、私はよつぱりの子をつりながら海岸を歩くと、向うからくにやす君が来て、カノーで行かないかと云いました。そこで二人でカノーをおろしてよつぱりの居る所をさがして、まはりました。方々をまはつて居るうちに、よつぱりがたくさん集つて居るところがみつかりました。そこでよつぱりをして、つりをはじめました。かゝる時は、よつぱり

◎ かつを 佐藤平次郎

私は朝早く起きて、大正丸に乗込みました。港を出て、宮の浜の方にまはり、釣漁を過かて、東島の近くに行きました。すると、国作ちゃんや信ちゃん、ほかにかつをが見えた。ホース一ぱいと叫びました。向もなく、つりはじめました。そこで、は三十本しかつりませんでした。それから、又他の船場を見つけて、つりました。その内、とうとう二千位つれたので、ふき流して立て、日の丸やてぬぐいをして、よつぱりかゝる来ました。港にはいつて、黒

岩近ぐにきますと、浜にはみどりやの人が  
ぼたをふつと居るのが見えまゝした。それか  
らもうつたかつま、ぶら下げて家へか  
へりました。

### 東京 小松壽太郎

二月二十日から夏休みがはじまつた。私は  
八月十日の千歳で東京に行つた。船に乗  
込んで少しつと、氣笛がなつて船は走り  
出した。私は船の甲板へ出て大村を見た。  
そして自分の住んで居た島からはなれる  
のはいやだなあと思つた。三日かつてやつと  
東京につた。はじめでなかりうれかつた。  
自動車にのつて家につた。その時私の家の

事を思ひ出した。又友達のことも思ひ出  
した。それでももう五日ぐらひたつたら東  
京に存れた。それから東京見物をはじ  
めた。一番はじめに宮城を見に行つた。そ  
の時は丁度大演習で、天皇陛下はお出  
にならなかつた。それから一月たつた。今度  
は本船にのつてかへる来た。やつと自分の  
島の土をふめたのでうれしかつた。

### ニ学期になつて 板東角男

夏休み中はちつとも勉強ができなかつた。  
だから早く学校がはじまればよいと思つた。  
いよいよニ学期になつた。今度は前よりよけ  
いにむつかしくなつたから、もつと勉強しなけれ  
ばだめだ。夏休みにもつとすればよかつた。  
これからの夏休みにはいよいよ勉強しやう。

## 綴り 6ネン

### 第二学期を迎へて。西村正一

学校の門の前によつとのもーぼらぶらぶらした。  
教室の中をのぞいて見ると机等はきれいに  
片付けられて居る。

誰も居ないので裏へ廻つて見るとぞろぞろ  
君等が大勢居た。皆<sup>えん</sup>気がうた。誰かが

「お前が来ると思はなかつたよ」と言つた。  
私は夏休中にろくもくを病んで寝てゐ

たのである。それか私は来れなかつたと思つた  
のであらう。皆が座つて居るそばにはいさな  
島があつて、その島にはハリーの木が三本ある。

小さな實が幾つになつて居る。松等が(學)  
期中に植えたのだ。

始り鐘が鳴いた。運動場へ出て並ぶ。

夏休中には鍛へた皆なの丈夫さうな體、兵  
黒な顔とくらべて、私の體はとてん違ひであ  
らう。私はぼろぼろ病氣のいやな事を知り

### 綴り

### 兵隊へのごほん 横山 丈夫

此の間の演習に海軍の兵隊がたごほん  
まゝした。それで僕の家でごほんもたご  
ほんした。兵隊さんはとんぶりみたか  
い。はーかたべません。僕は見て居てよく  
あはただけであ腹が(は)になるかと思ひ

また、僕は山の兵隊さんの所へ行って、晩ごはんを喰べました。水も、あながいすりたまりません。だから、家へ歸つて又ごはんを喰べました。あとで僕は兵隊さんに「お水だけであながいすりませんか」と聞きました。たら、「お水だけで餘りますよ」といつたので僕はびりりしました。終り

人は少ない位に物を喰へて居た方が体の為には良いのです。少ないやうでも兵隊は、又はもうそれ以上に馴れて居ますから平気なものです。

夏休を思ひ出して、  
セーボシ

### 高一級方



大演習

横山 悟

「空襲」と一人が叫んだ

僕は其の方を見た。なる程雲の中にうすうす見えるのは敵の飛行艇だ。九一年式、真まゝい爆音高く突き進んで来る。望遠鏡は大さな空襲のしるしを上げたり、ピストルを打つ、電話をかける。

飛行艇は早くも飛行場にせまつて来る。間もなく聞ゆる砲聲、其のうちには、爆弾を飛行場の上空から落ち

夏休はほんとに面白かった。

朝早く起き出して、母の手傳を始める。てつたひが終ると勉強を始める。勉強が終ると友達と遊むに行く。ほんとに面白かった。遊ぶのも運動になる。遊ぶのも運動になる。

ほんとによかった。今でも思ひ出す

終り

又、父島に兵隊さんには大さわぎをさせて逃げて行きた。

向もなく戦闘機が追いかけてたがもう追つかずかた。其の敵機は打落されたそうだが、今日の日本がこれ程早く落したら必勝は間違ひなした。

演習

鶴岡愛子

海軍の演習で飛行機が二十機ばかり来ていた。此の飛行機が一度に爆音高く飛がると狭い扉風谷一面に響き渡る。三三三三赤んぼでも「飛行機はどし」と

言ふともみぢの標なきを出して空  
を指さす。或は大勢で遊んでい  
ると洲崎から爆音高く飛び出し  
宙返りを三度したと思ふと港口カ  
方に行つて又宙返りをした。と其夕  
とたん二機が衝突した。中の一機が  
きりもみをする程にぐる／＼と廻つて  
翼がばう／＼に落ち機体は海中に  
落ちてしまった。人は無事にはラシー  
トで海上に下り、パラシエートと体から  
はぶして泳いでいた。うたなれぬ人は  
落ちる時絶すたらう、私は人間  
かどが無事であれと心に祈つた。

野球の前夜 浅沼啓介  
「あ、もう八時」と言ひながら座を  
とつて来た。  
今夜野球の真  
最中僕が一番打者となつて立った。  
今夜懸命に志平はモーニングをかけた。  
僕は「打つて」と心の中で言った。すると  
志平はまっすぐな球を投げた。「えい」と  
言つて振つた。バットに球は「ボン」とい  
ながら飛んだ。球は見事郵便  
局の前に落ちた。僕は「れしやうり  
余り飛が上った。  
もう朝だつた。

### 高ニの作文

二学期を迎へて 内海愛子  
長ッ、夏休んだがほうつと過してしまひ  
いつか第二学期になつてしまつた。二学期  
には運動會があるので、その練習もいけ  
ねはなりました。又二学期は氣候が大変よ  
いので、勉強にも運動にも此の学期が一番や  
りやすいです。此の時に私達は前より一  
う何事にも心にやらなければならぬ、と  
思ひます。  
私は前から體が丈夫でないから、此の時に体  
を丈夫にして運動の時には元氣にやれる

やうに、勉強も亦一心にして、前と悪  
かつた所をなほして二学期にはよい  
成績がとれるやうにしようと思ひます。  
又私は自分の思つた事をどしどしと  
片付けていってしまはうと思ひます。  
夏休 福岡雪子  
楽しんで待つて居た暑中休みも終つ  
た。その休が始まつた日。事田尾先  
生は遠く返りの国へ旅立たれまゝに  
私達に別れを告げずだ。  
体が来たう先生にお會ひしようと  
楽しんで居た翌日には、もう此の世に  
は居らなかつた。残念ながら佛に向



つて礼拝するより他はなかつた。寺の中がさ  
びしく私達を擁護して下さつて居る先生  
今更考へて見てもどうにもならない。もう  
一度此の世に生れて私達を教へ導いて頂  
きたい。先生の玉體を悪くさせたのも私  
達の為と一か思はれない。前に教へてら  
れた時、唱歌帳をおいては情無く淋しく  
思つた。

月の夜等空を眺めては亡き先生の玉體  
の瘦せた處が涙び出て悲しくなつしゝ。  
夏休の出来事 河野八一  
此の前北村へつて帰り途に漁運も大東  
つて来た時北村をみると途中で機関が

### 専女綴方

夜 一年 藤滝まみ子  
飯を頂いてから縁側に腰をかけて  
エを眺めながら妹達と晝間あつた事  
と話して居りました。空には満月に  
二のお月様が出て床にゆりたより晴  
れた空の星は寶石をちりまいた  
様にちりまいた。いよいよのちいさい  
花でした。私は思はず、羽の歌を  
歌いつけました。裏庭の砂糖び  
が時々かきりと風に淋しい音を立  
てます。あたりは静まりかへつて  
一層淋しい氣がします。私は念い

止つた。船の人は皆でセイロを捲く。気は  
強くなる。海は波々荒くなる。舟の中  
機関がかつた。たが又すく止る。机が  
小かつてきた。今日は船の上でねる。かと思  
ふと心細くなる。日は遅くなる。雨は降  
つてくる。海は荒くなる。船長は機関を怒  
る。こまかには小の子供は泣き出す。白  
介も心細くなる。舟の中夜が明け、水  
上飛行機が来た。誰か飛行機が来た  
と云ふ。舟中に居た人は皆目を見つめた。  
マストの上は助旗を上げた。飛行機は  
北村の方に行つてしまふた。  
此のながつかりてしまつた。気がつた。  
(後略)

で雨を止めぬ。縫物をけしめはした。  
一年 浅沼一子  
もう秋が来た。朝夕は銜程涼  
しくなりました。此の間の夜です。た  
一人で戸を開けて裁縫をして居  
りますとすつと涼しい風がけつて  
来ました。私は思はず、おし涼しいと  
いつて庭に出ました。暗夜なのに星  
ばかりがきらりとひかしてあります。  
特に流星が飛ぶのを見えました。  
其の後に寒いやうな氣がして来ま  
したので家に戻つて床に就きました。

夏休 二年 木村ハナ

長い暑休も今更は何特が短かく  
過してしまふほど。日頃今年のお休  
みは海軍の仕事をするつもりで休  
りたのに全く予想外でした。

でもお休中海軍の演習がより内  
々で望んで賑かに過しました。特には  
空ばかりながめてみた日もありました。  
この暑い中を兵隊さんはさまりよく  
固く演習したのです。このやう  
な兵隊さんがあつてこそこの國がま  
りか、私達は平和に生かされる行か  
まんと有難いと感謝致します。

思出 二年 仲山ソメ子

初秋とはソレぢから晝間は真夏と  
あまり暑くない暑さなので海軍  
に遊びに出かけた。海岸の風の涼しい  
おれ程汗ばんでおた身軀もソレつか  
やいソレしてしまふた。

ふと横を見れば一枚の呉若を敷ソレ  
ニエの女の音が人形を並べておんで  
ゐる。その子達の如く何れも望みさうな  
様。ドリーつと見つけておました。和は  
自分の幼なかつた時のことか思ひ出  
されて胸が一ぱりにおりました。特々  
まづのし忘れてぼんやりと見えて  
居りました(後略)

其の後の学校日誌より

七月廿日 本年一月より御病氣の為休養して居られた田尾先生には静

養の甲斐なく永眠されました。

廿三日 法蓮寺に田尾先生の告別式を行なひ、此後一同参列しました。

廿四日 海軍大演習の為来島を往復航空隊宿舎として校舎開放

廿五日 行幸記念日に付生徒一同神社参拜。

廿六日 伏見軍令部長官邸下を御送迎中ニりました。

九月五日 昨年一月より本校の為熱心な御世話下さり、御恩返しには御家

度の御都合で学校を止らり、御上京なさいました。

廿八日 満洲事変勸告三回 追記念の為、尋五以上入校生訓話

寄附。倉五郎也、藤崎、三ツ子、同、都、殿、一全三帝也、秋山、猪由、殿

一全三帝也、藤川、美智子、殿、以上にて一全

一全三帝也、峯谷、玄造、殿、保護者會、以上にて、厚く御礼申上

昭和八年九月第百三十八号  
大村郡小興小学校  
編輯部

